

会 議 録

会 議 名	令和元年度第1回橋本創生総合戦略審議会		
日 時	令和2年1月27日（月）午後1時30分～		
場 所	橋本市保健福祉センター3階 栄養指導室（洋室）		
出 席 者	委 員	藤田 武弘 平家 利也 深海 君彦	乾 幸八 大原 康平 中嶋 浩晶
			森下 祐治 澤村 優希 小林 俊治 【出席委員：9名】
次 第	1. 開会 2. 市長あいさつ及び委嘱状交付 3. 委員紹介 4. 会長あいさつ 5. 橋本創生総合戦略策定の諮問 6. 議事 (1) まち・ひと・しごと創生について (2) これまでの橋本創生総合戦略のふりかえり (3) 橋本創生総合戦略策定方針 (4) 橋本創生総合戦略骨子案 (5) 意見交換 (6) その他 7. 閉会		
資 料	資料①：橋本創生総合戦略審議会委員名簿 資料②：橋本創生総合戦略審議会条例、同施行規則 資料③：まち・ひと・しごと創生長期ビジョン、総合戦略（概要） 資料④：これまでの橋本創生総合戦略のふりかえり 資料⑤：橋本創生総合戦略策定方針 資料⑥：橋本創生総合戦略骨子案 追加資料①：橋本創生総合戦略の策定について（諮問）		

1. 開会

- ・事務局より開会の挨拶、資料確認を行う。

2. 市長挨拶

(市長) みなさん、こんにちは。令和元年度第1回橋本創生総合戦略審議会の開催にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。

皆様におかれましては、委員就任をお願いしたところ快く引き受けていただきましてほんとうにありがとうございます。

地方創生は私たちにとって、大変大事な課題でもありますし、将来の橋本市を考えていく上で、ほんとうに必要なものであると思っています。

現行の総合戦略では4つの基本目標を制定しながら事業を進めています。ただ、人口減少や少子高齢化が予測していた以上に早く進んでいるのが現状であります。高齢化率は32%を超えて65歳以上の人が2万人を超えたということで、人口の3分の1が高齢者のまちとなっています。

公共施設、道路、橋梁等も非常に老朽化しておるのが現状です。財政面では、皆様のご協力により健全化も順調に進んできておりまして、当面の間は国の補助などを活用し、学校改修を中心に長寿命化を早期に図っていきたいと考えております。

雇用の確保という部分におきましては、あやの台北部の開発を来年度当初からスタートし3年間で造成をし、販売をしていきたいと考えており、さらなる企業誘致を進めることで、若い人の雇用であったり、移住をしてきてもらったりといった環境づくりを進めていきたいと思っています。

その反面、地元企業の人手不足というのが非常に大きな問題になってきておりまして、ハローワークに募集を出しても集まらないという現状をどう打開していくのかという大きな課題を残しています。

移住定住についても進めていきたいと考えておりますが、空き家対策の部分についても課題があります。希望する方は増えてきていますが、仏壇や荷物が残されているのでダメだというふうに、マッチングがうまくいっておらず、今後はそういったことを解決していかなければなりません。

先ほども言いましたように、少子高齢化による子どもの貧困対策であったり、児童虐待やいじめ、不登校といった問題も年々増えてきているのも現状ですし、高齢者の介護の支援や移動支援、あるいは後期高齢者医療が当市でも18億円を超えました。特に2025年に団塊の世代が75歳を迎えたときにどれほどの費用がかかってくるのか、また、国民

健康保険の加入者数が減ってきており、資金不足も生じております。

このような難しい課題をたくさん抱えている中で、地方創生ということで出来るだけ具体的な提案をいただくことで、どのように事業を行っていくのかということをご提案いただければと思います。

先日も、若手就農家のみなさんとお話をさせていただいたんですけれども、そこでも地方創生という部分で農業分野をどうしていくのかという話題が出てきています。

また、観光の分野でも交流人口を増やしていくのか、観光客をどういう風に誘致していくのかといった議論が必要だと思っています。先日もアジアヘラブナサミットを開催し、議論をしていただきました。結論としては日本だけで釣り人口を増やしていくことには限界があるので、中国や台湾、アメリカ等海外での釣り人口を増やすことで、へら竿だけでなく釣り用具の需要を増やしていきたいと考えております。

地方創生は私たちにとって非常に大事な課題でありますし、国、県の動向もありますが、できるだけ具体的なお話をさせていただければと思っていますのでよろしくお願いいたします。

本日は本当にお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。

3. 委員紹介 【資料①：橋本市長期総合計画審議会委員名簿】

- ・事務局より委員及び事務局の紹介を行った。
- ・事務局より総合戦略審議会の開催にあたり、委員数 10 名のうち委員の 9 名が出席で、過半数の出席により本会議が成立していることを報告した。
- ・会長に藤田委員、副会長に乾委員が選出、決定される。

4. 会長あいさつ

(会 長) ただいまご指名をいただきました、和歌山大学観光学部の藤田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。現在、国の方もまち・ひと・しごと創生の第2期がいよいよ始まろうとしていまして、市長からもご案内いただいたような、人口減少に歯止めがかからないといった全国的な動きがあり、避けては通れない問題であります。これをどう克服していくのかという国の一つの方向性として、関係人口づくりというのが鍵を握る言葉になっていくのかなと思います。

橋本市の場合は、大阪との関係もあってずいぶん移住者もいらっしゃるかと思いますが、地域を支えてくれる人を移住者定住者だけでなく、幅広く橋本市のファンを作っていくという取組みが今後ますます

必要になるのではないかと考えております。これは和歌山県においても共通の課題であると考えています。

先ほどからも、市長から観光という言葉が鍵を握るというご紹介がありましたけれども、我々の観光学部は狭い意味での観光ではなく、人が時間や空間を越えて移動することに伴って、どんな意識の変化や社会の仕組みの変化が起こるのかということをいろんな学問からアプローチしていくことを目指す観光学をしています。

私はもともと農業経済学、農村社会学ですので農村とか地域に人が移住であったり直売所への買い物であったりをきっかけに動くことで地域社会に何が起こるのかといったことを観光学部の中で研究しています。

ほかの教員もいろいろな立場から研究をしていますし、学生たちも研究を行っており、観光というのは非常に幅広い現象になっています。

いろんなところでインバウンドも含めて人は移動しているので、その移動をどう現地の力に変えていくのかという点で言えば、まさに関係人口をどう作っていくのかというのがぴたっと来るのかなと考えております。

ぜひ具体的な橋本の今後の将来を見据えた関係人口づくりの提案をこの会議から醸し出していければと思いますので、皆さんの忌憚のないご意見を頂戴しながら会議を盛り上げていただければと思います。冒頭ではございますがご挨拶とさせていただきます。

5. 諮問 【追加資料① 橋本創生総合戦略の策定について諮問書】

・市長が会長に諮問を行う。(諮問書を市長が会長に手渡す。)

～市長退出～

6. 議事

(1) まち・ひと・しごと創生について

【資料③ まち・ひと・しごと創生長期ビジョン、総合戦略（概要）】

・事務局が資料に基づき説明する。

(会 長) ただいま事務局から説明があったが、質問等はないか。

関係人口という言葉初めて聞いたという方はいないか。

関係人口という言葉が国が言うようになってきたのは2年ほど前からである。

関係人口は定住人口でも観光で移動する人口でもなく、単身赴任や観光などをきっかけとして、その地域とのかかわりが深くなり、

何かあった時にはその地域の仲間として協力してくれる人たちである。

地域の外から稼ぐ力を高めるとともに、地域内経済循環を実現することがこれからの地方創生で重要となってくる。橋本市の場合はまだまだ企業誘致の可能性があるという特殊な状況はあるが、地域に関係人口を定着させていくためには、企業誘致だけでなくネットワークを持った起業家やいろんな分野をつないでいくことで新たな仕事を作っていくといった発想が地域内経済循環を高めることになる。その効果として、雇用も生まれるし、税金も地域に入っていくこととなる。今後の課題は地域の中の様々な分野の方をどうつなげていくのかということが重要である。

(委員) 橋本での関係人口とはどんな分野にどう関与してくるのかをはっきりとさせたい。

(委員) 日本一のへら竿の産地なのに生産力が足りず、経済の規模が小さい。今のへら竿は高級車のようなものなので、手元にいきわたりにくい、そこでFRPなどで製造することでもっと親しみやすいものとして展開していきたい。紀州へら竿というブランドは橋本が日本一なのに認知度があまりないので、そこを展開していくことで関係人口の増加に繋がるのでは。

(会長) 消費の傾向はモノ消費からコト消費へと変わっており、そのモノが作られた環境や製作者の思いについて見たり聞いたりすることで共感したいという層が日本だけでなく海外にも多い。そういう方たちに対して、産業観光のような体験型など着地型観光を提供していくこともできるのでは。

(委員) 最近はグランピングなどのアウトドアとしての展開等も考えていて、今までは釣りだけだったので先細りしていたが、オリジナルの竿やストーリー性を持たせることで釣りの可能性を広げてジビエ料理や農産物などとも繋げていければと考えている。

(会長) 関連する業界を増やしていけば関係人口の増加に繋がるし、経済の活性化にもなっていく。
例えば、マイ竿のようなものはありますか。

(委 員) 1本から作成ができる。今後の展開として、著名人等が参加する東京のアウトドアサークルなどと連携して、橋本に来てもらい、目の前でオーダーメイドの竿を作るといったことを考えている。

(会 長) そういう方に宿泊や地元の産品を消費してもらうことで滞在性というものが出てくるので広がりが出てくるのでは。

(2) これまでの橋本創生総合戦略のふりかえり

【資料④ これまでの橋本創生総合戦略のふりかえり】

・事務局が資料に基づき説明

(会 長) 大きく4つに分けて KPI の検証をまとめていただいているが、例えば基本目標 I の産業振興について感覚として達成できていると思うか。

(委 員) これは明らかに市の立場でまとめたものだなと思う。達成度についても、部分的なものは達成しているかもしれないが、戦略ということであれば次へのつながりも考慮しなければいつまでたっても同じである。

コラボという言葉もあるが、橋本の場合は柿を上手に作れるが、上手に売ることが出来ていない状況があるので、売るのが得意な人と協力していくことで、農業と商業のつながりができてくる。釣り竿とジビエの話もあったが、関係のない分野を上手くつなげることでさらに広がりが出てくると考えるので、次の総合戦略に取り入れていただきたい。

(会 長) 第2期の説明の中でも地域内の循環性を高めるという観点で言えば、一つの産業領域に閉じた形ではなくなるような検討が必要となる。

(委 員) 現状として、経済は良くはなっていない。関東や海外のマーケットに対しての感覚ではあるが、橋本市の商業、産業を見ていると横ばいか右肩下がりの状況で、関係が広がっていない。というのは、住みよい地域にインフラ整備や企業誘致が増えることで地域の経済が下がっている。京奈和道路ができたことで経済のワープゾーンができ、小売店の立地条件によっては客足が途絶えたり、大規模な商業施設に近くなることでどんどん県外に人が出ていく

ことで、まちの商業が衰退している。東京とかと比べると、今の状況は、地元の産業にとっていいものではなく焦りがあり、いろいろなことをしようと考えている。しかし、地元には外に出て商売をするという感覚がないので、一生懸命やっていたらどうかなると考えている。これからは事業者にも緊張感を持ってもらう意識づけが必要になってくるのではないか。

(会 長) よく言う危機意識というところで、橋本市だけでなく全国どこでも地元で起こっていることと、地元の外で起こっていること、世界で起こっていることとの関連というのは、見る機会をたまたま持っている人には見えるが、持っていないと見えてこない。その格差を放置していると情報が共有されないままとなる。SNSなどで共有できる機会をつくっていくことも必要だと思われる。農林業など一次産業に関しての意見はあるか。

(委 員) ふりかえりの中に農産物の販売額や作付増加面積の KPI を達成しているとなっているが、根拠がよくわからない。KPI は感覚的に点数をつけているのか、具体的な数値をもって達成としているのか。農作物の販売額の増加についても、実際のところ 85% から 90% だったので、何を見て達成としているのか。

(会 長) 行政が設定した KPI については市民感覚ではわかりにくい。本日は、根拠となる数字が示されていないので、次回は数値を示してもらいたい。

(委 員) もう 1 点、KPI を達成したと評価されることで行政に対して問題提起とならないところがある。実際は右肩下がりの感覚があるのにクリアしていると判断はされたくない。

(会 長) この審議会では、前回の KPI の設定が適切であったのか、次に設定する KPI はどんなものが適切かを含めて議論を進めていくことが出来ればと考える。
基本目標Ⅱの人の流れに関して感じていることはあるか。

(委 員) 農業の点から、観光と農業は割と密接な関係があるので、農業を観光の部分に進出していくとなった時に、例えば柿で言うと加工食品があまりないので、秋の限定された時期にしか食べることが

出来ない。そのほかの時期には名産品である柿を楽しんでもらえない。そこで、ドライフルーツなどの年中食べられるものをつくることで、柿とか特産品をPRする環境ができるのではないか。また、ドライフルーツにする柿は今まで捨てていた柿から作成をするので、農業者の所得向上につながるのでは。

(会 長) 農業の労働力的にはどうか。橋本の柿のワーキングホリデーや援農の状況はどうか。

(委 員) 橋本の柿に関してはあまりそういう状況はない。

(会 長) 品目や地域によってはいろいろなところで動き始めている。例えば柿であっても、収穫の時期だけだと非常に狭くなるが、摘果、摘蕾、選定の時期まで含めて、生産の過程からかかわった柿を是非食べたいという人も一定数いるので、そこを観光と絡めていくと可能性が広がるし、加工品というのも産業観光的な広がりを見せるかもしれない。

(委 員) 観光とコラボという話のほかに、子どもたちの郷土愛を育むということをするにあたって、企業の立場から言うと関わっていきたいがなかなか時間をつくれな。モノをつくることはプロだが、人に見せたりするのはあまり得意ではない。見せたり教えたりすることに力を入れると生産力が落ちてしまう。先日も小学校に企業説明会に行ったが、先生や子どもたちにどれほどの効果があるのか疑問である。指標の話もそうだが、体裁だけでなく中身のあつ結果が出る方向付けをしていきたい。

(会 長) 伝えるという部分で活用されているのは地域おこし協力隊などの都市から農山村にやってくる人にミッションを担ってもらおうという方法がある。橋本ではあまり活用できていないようだが、地域の産業のコラボレーションや次世代教育につながるミッションを与えていくことが必要ではないか。

そういった人材の活用が関係人口の増加にもつながっていくのではないか。

4番目の目標とも関わるが、ふるさと学習については達成できなかったと書いているが、次世代へ繋いでいくという点で言うとうか。

(委員) ワンチームという言葉もあるが、この会議にはいろんな関係の方が呼ばれていて、橋本創生総合戦略はすべてを統合したものだということは良く分かった。

教育の観点から言うと、小中高の連携はあまりとれていないように感じる。ふるさと学習について、お互いが何をしているのかということがあまり共有されておらず、当然わかっているだろうということが教えられていない。現在高校でも総合的な探求の時間を通じて学習を進めているが、生徒はほとんど橋本市のことを知らないので、もっと幼いころからのふるさと学習を充実させていくことが必要なのではないか。

(委員) 各学校によってふるさと学習の内容に差があり向かう方向も違う。

(会長) 学習内容に差があってもよいが、各校で共有することは必要である。

(委員) 共育コミュニティを設けて、月に1度の会議を小中高で行っているので共有できていないということはないと考える。

ただ、タブレットPCによるふるさと学習については、現実的に総合的な学習の時間のすべてで使用するというのはできていない。過去に教科書で配っていたものをタブレットに変更したところではあるが、使用の頻度が低い状況である。

そんな中でもすべての地域にある共育コミュニティの中で総合的な学習のあり方について共有していこうとしているのでご理解いただきたい。

(会長) 教育の現場にいる先生方で情報を共有することはあっても、その学習の効果がいつ発現するのかわからないため、検証することは非常に難しい。その中で特徴的なのは、子供農山漁村交流プロジェクトというのがあり、1週間ほどの農家民泊を行ったところ、その時の原体験がきっかけとなり、大学生となった今ようやく進路選択の段階で花開いているような現状がある。

結果の検証までを小中高それぞれで行うのは難しいが、少なくとも各学校で情報共有をしておくことが大切であると考えている。

子育ての分野からはどうか。

- (委員) 幼稚園から中学生までの子どもがいて、この数年の間にも保健師さんに教えてもらう内容がすごく変わってきている。最初は果汁を飲ませましょうというところから、今は飲ませてはいけませんだとか、コロコロ変わっているような状況である。
子育て支援の活動もしているなかで、お母さんたちの根本的な悩みは同じなので、手助けはできていると思う。
- (会長) ふりかえりの中で子育てに関してはどうか。
- (委員) 私も昔に5泊の自然体験に行ったが、橋本では1泊で帰ってきてしまうのもっと体験して来ればいいのにとと思う。
- (委員) 結局、総合戦略で人口の流出を止めようとしているが、高校大学に行くときに優秀な人間は地元企業ではなく外へ出ていく傾向がある。県としても残って地元企業で活躍してほしいという思いがあると思うが。
- (委員) 橋本という地域は和歌山県内でも有数の暮らしやすさ、豊かな地域であるといえ、郡内でも観光客がかなり増えてきているところである。
府県間道路の開通でストロー効果というか、出ていく人もあるが、仕事は大阪でして暮らしはこっちでというようなことも考えられる。経済的に豊かになろうと思えば、どうしても都会への流出は避けられない部分もある。
橋本に関してはすごく住みやすいところだと思う。実はこの辺の地域の人には極論を言えば、そんなに困っていないんじゃないかとも感じる場所がある。
これまでの総合戦略で50ほどのKPIが設定されていたかと思うがどれほど達成できているのか、これからの指標はこれでいいのか、創生につながるのかということを議論できればと考える。
細かい指標を積み上げていって橋本創生総合戦略に盛り込んでいければ良いと思う。国の総合戦略は総花的なので、橋本の地域に置き換えて細かいところから地域の経済に効果のある指標の設定を行っていくことが出来ればと考える。
観光入込客数が380万ほどあるにもかかわらず、飲食店などが少なかったり、お金を落とすためのインフラ整備というのも必要となってくるのではないかと。

橋本の住みやすさというものが外にあまり伝わっていないので、伝えていけるような計画となればよいと考える。

(会 長) 子どもたちが外に出ていくという話があったが、新しい学習指導要領の中で地域人教育というキーワードができていて、その意味合いは地域で育って地域で働かせるではなく、地域で育てた子どもに地域のすばらしさを理解してもらい、外に行ってもいいがお土産を持たせる、そしていつかのタイミングで帰ってきてもらう。そういった取り組みによって、小中高大と含めて地域の良さを伝えていくことで、一時的に進学就職で出ていくことがあっても、愛着を持った子どもたちはふるさととのつながりを持とうとするので、必ずしも地元に縛り付けるというものではない。少し長くなったが、アイスブレイクという形で皆さんの意見をお聞きした。皆さんの意見として KPI の比較のできる資料の提出を事務局にはお願いしたい。

(3) (4) 「橋本創生総合戦略策定方針」及び「橋本創生総合戦略骨子案」について

【資料 5、6 橋本創生総合戦略策定方針、橋本創生総合戦略骨子案】
・事務局が資料 5 に基づき説明

(会 長) まず資料 5 の総合戦略の位置づけというところをはっきりさせる必要があるが大丈夫か。皆さんに議論していただくうえで位置づけを示していただきたい。これまでの KPI と違う指標を設定したいという声が上がった場合にはどうなるのか。長期総合計画であれば前期後期があるが、総合戦略をふまえての見直しもあり得るのか。

(事務局) 後期の長期総合計画の議論の中に総合戦略の議論の内容が盛り込まれることもあろうかと考える。

(会 長) 事務局から回答のあったようにこの会議の内容が長期総合計画の後期計画にも影響する可能性があるということを理解していただければ。骨子案については分量が多いので、要点の説明を事務局に求めます。

・事務局が資料6について説明

(会 長) 骨子案の分量が多いが、今後あと何回の会議を開催予定であるのか。市長への答申の時期のこともあるがいかがか。

(事務局) 今回を含めて3回もしくは4回となると考える。

(会 長) そのスケジュール感で言えば、あと2回で残りの議論を済ます必要があると考える。一度ここで休憩を取りその間で委員には骨子案に目を通していただき、事務局はどの点に力を入れて議論していきたいかというところを整理していただきたい。
中身の議論にあと2回は必要で、答申に際してもう1度の議論もしくは事務局と会長、副会長でメール会議等で皆さんの意見を踏まえたものを出すとといったことになるかと考える。

【休憩】

(5) 意見交換

(会 長) それでは、再開します。長期総合計画と総合戦略には2年のずれがあるので、後期計画に反映していくことも考えて今後の審議をどのような形でやっていくのかの提案をお願いしたい。

(委 員) 主な成果という項目で農業が一つもないことが残念である。成果の可能性としては今後広がりがあり、橋本市でのウエイトも高いと考えるが、市は現状を分かっているのか。
また、就農している人の高齢化が著しいので新規就農者を増やすことが必要である。これからは儲かる農業のモデルケースを作っていないといけないので、総合戦略ではそういったところを書き込んでいければと考える。
農家の収入を上げるための何かを提案していくことが出来ればと思う。

(会 長) 多様な販路を拡大していくということは必要であると考えている。確認であるが、農業に関する KPI の設定もあるのか。

- (事務局) KPI の設定はあります。
- (会 長) 主な、と記載があるので部分的であるとは思いますが、農業について記載がないことは気になる場所である。その他の目標についても妥当であるかどうか判断するために KPI の一覧表の提出を次回お願いする。
- (委 員) 子育て支援サイトの閲覧数は、「はぴもと」のことかと思うが、全く周知されていない。開設に携わったがその後の更新であったり手入れが行き届いていない。最近の子育て世代には全く行き届いていないように思う。達成したというのも最初の 1, 2 年の話で今は達成できていないのではないか。
- (委 員) 9, 000 件といえば多い気もするが。
- (会 長) こういうサイトで 9, 000 件というのは決して多くない。目標が低く設定されているために主な成果として挙げられているのでは。その設定が妥当であったのかの議論も必要になってくるのでは。
- (委 員) アンケートとか参加人数とかあるが、本当に情報を知りたい人に対する広報の効果はどれほど出ているのか。
- (会 長) サイトのアクセスについて、橋本市内の内訳を出すことは難しいが、域外からのアクセスについての分析はしているのか。
- (事務局) 過去にアクセスの検証を行っていたことはあるが、現在は詳細なアクセスの分析は行っていない。
- (委 員) 広報の媒体として一番効果的なものは何か。
- (事務局) 市内に対しては広報はしもとが効果があり、SNS は市内外どちらも、ホームページについては市外への発信をしていけばと考えている。
- (委 員) 広報に関する KPI の達成度合いはどうか。

- (事務局) 目標値の設定の仕方もあるが達成はできている。
- (会長) 行政は KPI の設定が制限されている部分もあるので、市民が求めている目標設定とはならない場合もある。その点も理解したうえで議論を進めていくことが出来ればと思う。
- (委員) 要望を実現してもらえるのはありがたいが、教育関係でもあったように、事業をなくすのが下手で、現場の人の仕事が増えるばかりな現状があると思う。時代にそぐわないものを削っていくことはできるのか。
- (会長) 目標値の見直しはしていけばいいし、時代に合うように変更を加えることがよいのではないかという発言がここで行われるべきだと考える。
- (事務局) 総合戦略の評価委員会もあるので、その中で効果の疑わしいものがあれば見直しをきっちりと行っていくべきであると思う。
- (会長) 策定にかかわった人が評価にもかかわることが望ましいと考える。
- (委員) 今回の基本目標は3つであり、前回の4つと構成が変わっているがその考え方はどうなっているのか。また、今回の総合戦略で重きを置いているところはどこなのか。
- (事務局) まず総合戦略の策定の方針として、今回は長期総合計画の体系に合わせた内容としている。骨子案は長期総合計画のとおりとしているので、内容が総花的になっているのでどこに力を入れるのが明確でないかもしれない。事務局の思いとしては、長期総合計画の中では先行的に取り組むプロジェクトを設定しているので、力を入れる点はその施策となると考える。
- (会長) 今の話で言うと、先行的な取り組みを総合戦略に盛り込みたいという話だが、先行的な取り組みは長期総合計画の前期の期間の取り組みとなるので、総合戦略と期間がずれるが、策定にあたって先行的な取り組み以外のものを含めていってもよいのか。
- (事務局) 形として先行的というのはあるが、審議会の中で戦略上必要と判

断されたものは組み込んでいきたい。

(会 長) 先行的なプロジェクトは3つあるが、後期にも引き続き同じ計画を引き継いでいくのか、それとも変わるのか。

(事務局) 必ずしも変わるわけではなく、取組みとして続けていくこともあるかと考える。

(委 員) 長期総合計画などのつくられた計画は誰に向けての発信となっていくのか。

(事務局) 見直しを行う段階で市民に対してアンケートを取ったり実績の公表などを行ったりしていく。

(委 員) 現在計画を公表しているのか。

(事務局) ホームページ上で公開している。

(委 員) 未来を担う子ども達に概要版などを学校を通じて配り、学ぶ機会を与えることも必要と考える。

(会 長) 橋本市も概要版があると思うので配っていくことも検討してはどうか。

(事務局) 地元の高校での取組みとして、概要版を配りふるさと学習をする機会を今年度からつくっている。

(会 長) 計画の説明は先生が行っているのか市の職員が行っているのか。

(委 員) 計画の内容については市の職員に行ってもらっている。

(委 員) そういった取組みを行っているのは市内すべての高校か。

(委 員) 現在は1校だけとなっている。

(委 員) 今回策定する計画の目標を実行していくのは実際に農業とか商業に従事している人になると思うので、そういった人たちに周知す

る必要があると考える。

(6) その他

(会 長) その他連絡事項について事務局よりお願いします。
・事務局より事務連絡を行う

(会 長) 本日は副会長にまとめて頂いて終わりとします。

(副会長) 副会長としてまとめさせていただきます。
難しい内容なのでなかなか理解できなかったかもしれないが、長期総合計画についてもよく読んでいただいて、次回の審議での議論につなげてほしい。
本日は長時間の議論ありがとうございました。

7. 閉会

(事務局) 長時間どうもありがとうございました。閉会にあたり、総合政策部長より一言ご挨拶申し上げます。

(部 長) 本日はありがとうございます。橋本市は便利な田舎、住みやすいまちであり、都会へ通う人が多いサラリーマンのまちとも言えます。しかし、仕事がなければサラリーマンは増えないので、市内の産業の育成も大切になってきます。また、観光によってお金を落としてもらうということも大切です。でなければ定住はできません。

橋本市は合計特殊出生率が非常に少ないので、子どもを産み育てやすい環境をつくっていくことが必要となります。そういうことを総合的に考えると、ふるさと学習を通じてふるさとを好きになってもらい根付いてもらう教育が必要となってくる。その結果、親子3世代が地元で生活することで子育てを助けてもらったりすることが出来るようなまちづくりが大切ではないかと考えています。

これからもご意見をいただきながら戦略を固めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしく願いいたします。

(事務局) それでは、これもちまして令和元年度第1回橋本創生総合戦略審議会を終了させていただきます。長時間どうもありがとうございました。